

バイオマススクフォースセミナーに参加して

筑波大学社会・国際学群 国際総合学類 新居万里奈

バイオマススクフォースがつくば市役所 2 階の小会議室にて開催された。今回もスタッフと参加者の両者を兼ねて参加した。生物資源学類の先輩がお手伝いに来ていたので、彼らと交流出来たことも非常に良い刺激となった。

今回お越しくくださった先生は、東京大学生産技術研究所の望月和博氏と三菱総合研究所の赤川彰彦氏で、望月氏による“農業分野におけるエネルギー問題を考える、つくば市への提案”についての講演では、今まで知らなかった農業とエネルギーについての関係やこれからの可能性について学ぶことが出来、参加者兼案内人であった農業生産法人・水社の郷 木村卓司氏からの現場を知る人ならではの「バイオマスを法律によってきちんと規制しなければ、廃棄の量を減らす努力をせずに大量の廃棄をバイオマス用だと言う業者が現れるのでは？」という質問は的を射ていて、環境問題の難しさを感じた。

続いて、講演された赤川氏は非常に熱意を持って地域おこしと新エネルギー政策(特に太陽光発電)をセットで推し進めておられる方で、赤川氏が 6 年かけて鹿児島県いちき串木野市で行った環境維新のまちづくりについてのお話を中心に地方都市の現状や課題、地方創生などについて説明された。講演では、地方自治体の現状を示す様々なデータが紹介されていたので大変分かりやすく、環境政策と観光を一緒にするというアイデアは思いつかなかったものだったので、とても勉強になりました。機会があれば、いちき串木野市に行ってみたいと思った。

最後に農業生産法人水社の郷の職員に連れられて、太陽光パネル設置現場を見学しに行った。道中、どうしてその土地に太陽光パネルを設置することになったのかや太陽光パネルの下で日陰草であるどくだみや明日葉の生産の話、朝鮮人参の話を聞いて、とても楽しかった。定年後も地域にこの様に積極的に新しい技術や農業にチャレンジする人たちがいるつくば市は本当に凄いなと感じた。

またこのような機会があれば是非参加し、スタッフとしてつくば市のイベントを盛り上げていきたい。